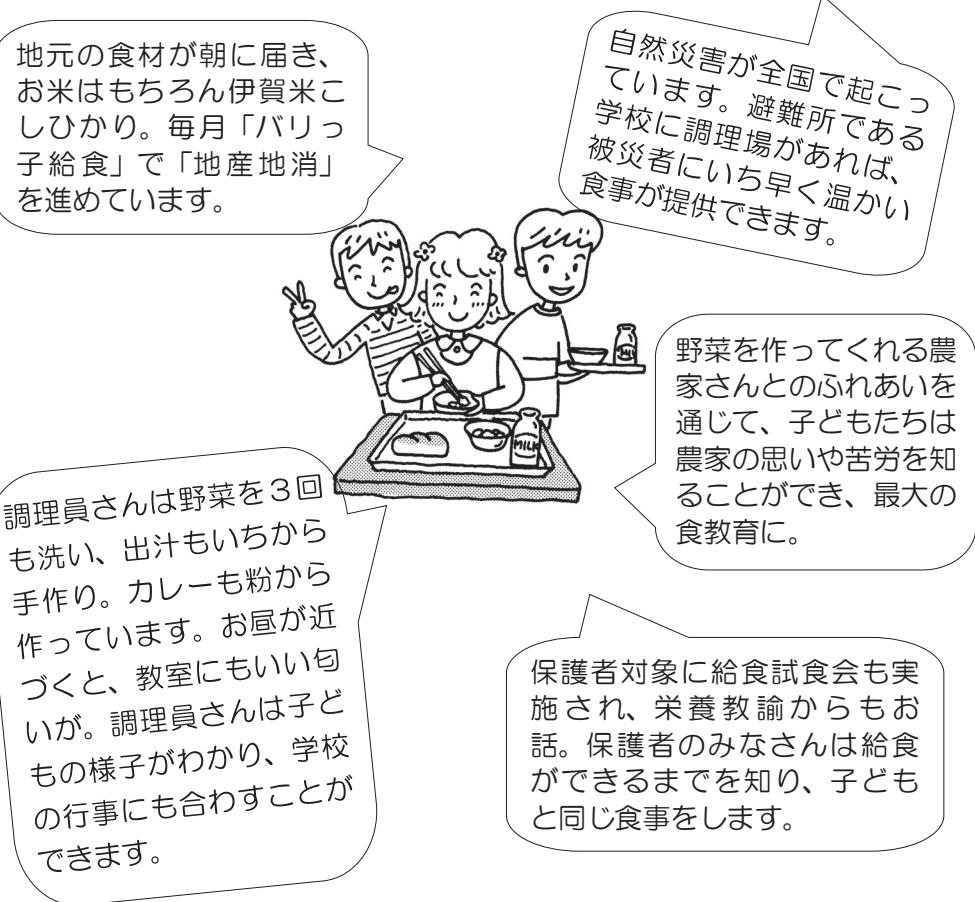


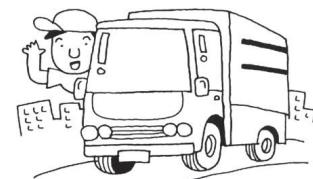
自校方式 ここがイイ!!

名張市の14の小学校は全て学校敷地内に調理場がある自校方式の給食が実施されています。



センター方式ではこうはいきません

- 3000食を一か所で作って、トラックで配達。
- 時間が限られていて、自校方式のように手作りが困難。
- 食中毒などが起きた場合は被害が全市的に広がる。
- 生産者や調理員の顔が見えず、食育が難しくなる。
- 保温は工夫されているが、フライがベタベタ、おひたしは水っぽくなるなど、味が落ちる。



コストが優先し、大事な中学校給食の内容が考えられていません。これまでの議会で教育委員会は次のように答えていました。自校方式については「配送の時間や経費を要せず、適温での提供が可能。教材として活用する点が優れている」と評価しているものの、「給食室の建設費や維持管理費等で多額の費用が必要となる」セントラル方式は「調理施設の集約により人件費や維持管理費の抑制が可能という点で優れています。自校と同様にアレルギー対応や給食を通じた教育の推進も可能。自校に比べて施設整備費用を抑えることが可能」とセントラル方式に傾いています。

現在、2020年に中学校給食の調理場建設に向けて、プロジェクトチームが立ち上がり、教育次長・総務部長・都市整備部長です。メンバーは、副市長・教育次長・総務部長・都市整備部長です。これまで会議が4回開かれていましたが、その内容は公開されないことは一体どういうことでしょうか。

しかも、PFIも検討

PFI方式をとる場合は、導入可能性調査をコンサルタントに委託し、市直営建設との費用負担等を比較します。PFIで最初は中学校5校(300食)規模から始め、14小学校(4000食)の自校方式(700食)を廃止してセンターに集約します。



子どもたちにとって一番いい自校方式の学校給食で、名張の経済の好循環を作り出し、みんなの笑顔をいっぱいにしていきましょう!

こどもも元気、地域も元気!

——中学校給食は自校方式で

名張市は2年後の2020年には中学校給食の調理場建設に取り掛かる計画です。この間、議会のたびに中学校給食を取り上げ要望してきた三原じゅん子市会議員にお話を聞きました。

コストが優先し、大事な中学校給食の内容が考えられていません。

※PFIとは：公共サービスを、資金調達、企画、設計、維持管理等すべて民間で提供する手法。

教育の一環である給食を民間の営利の対象にし、食教育を実践してきた小学校の自校方式までやめてしまうことは認められません。

なばり民報

N.O. 1
2018. 11
日本共産党
名張市委員会
名張市緑が丘東181
電話 64-6050
FAX 63-6646

——センター方式が経費がかからないと思われがちですが、実は大差はないのです——

	自校方式(5中学校)	センター方式
設備費用の比較	11億2500万円 (1校あたり2億2500万円) *1校2億円規模の施設整備。市内に入札資格のある事業者が数十社あり	11億200万円(土地代含まず) *11億円の施設整備ができる、入札資格のある事業者が市内にはないため、市外から大手事業者が参入
ランニングコスト(1年間)	1億7000万円	1億5250万円

なばり探訪 1

名張にお城はあった

ここに一冊の報告書があります。1993年に名張遺跡調査会が刊行した名張藤堂家邸跡の発掘調査報告書です。

「序」として「名張藤堂家の家紋＜桔梗＞にちなみ『桔梗ヶ丘』と呼ばれる丸の内の高台には、藤堂家邸造営以前に立派な石垣をもった城館が存在した」と述べられています。

…確かに名張にはお城は無かった筈なのに…
ご存知のように初代藩主藤堂高吉は、養父高虎に実子が生まれたため家来に格下げされ築城は許されず、廃城となっていた松倉氏の「名張城」の縄張りを活かした屋敷を建てました。

1987年の発掘調査で、藤堂家邸から旧老人福祉センター辺りにかけて自然石を組み合させた穴太（あのう）積みの石垣が現れました。今は再び道路の下で眠りについています。

残念なことに名張市は旧老人福祉センターの土地を民間に売却する方針です。いったん民間のものになれば、ほぼ永久に名張城は幻の城となります。

ときの市長の判断如何で寿栄神社を含む「桔梗ヶ丘」の歴史的景観はいま、存亡の岐路に立っています



長屋池から宇陀川に向かう新川
(右は田んぼ、左側が小林住宅)



予算がないままされない、最優先で整備を。

今後も予測される豪雨や地震に対し、被害をくい止める対策に思い切った予算化が必要です。

日本共産党のたつみコーラー参議院議員が国会で対応を迫りましたが、西日本豪雨で決

予測し得る危険を共有するだけなく、被害をくい止めるための対策をとつてこそ意味があります。

特に国や行政は、地域や住民と一緒にして災害警戒区域の日常的な点検を行い、必要な整備をしていく責任があります。

予算がないですまされない、最優先で整備を。

「名張市洪水・土砂災害ハ
ザードマップ」を見てみましょ
う。

地図上の斜線やドットの箇所
は、三重県知事が土砂災害警戒
区域として指定したもので、避
難場所は市と地域が指定してい
ますが、避難所が災害警戒区域
の中にあるところが少なくあり
ません。みんなの地域ではど
うですか？

名張のため池、188か所

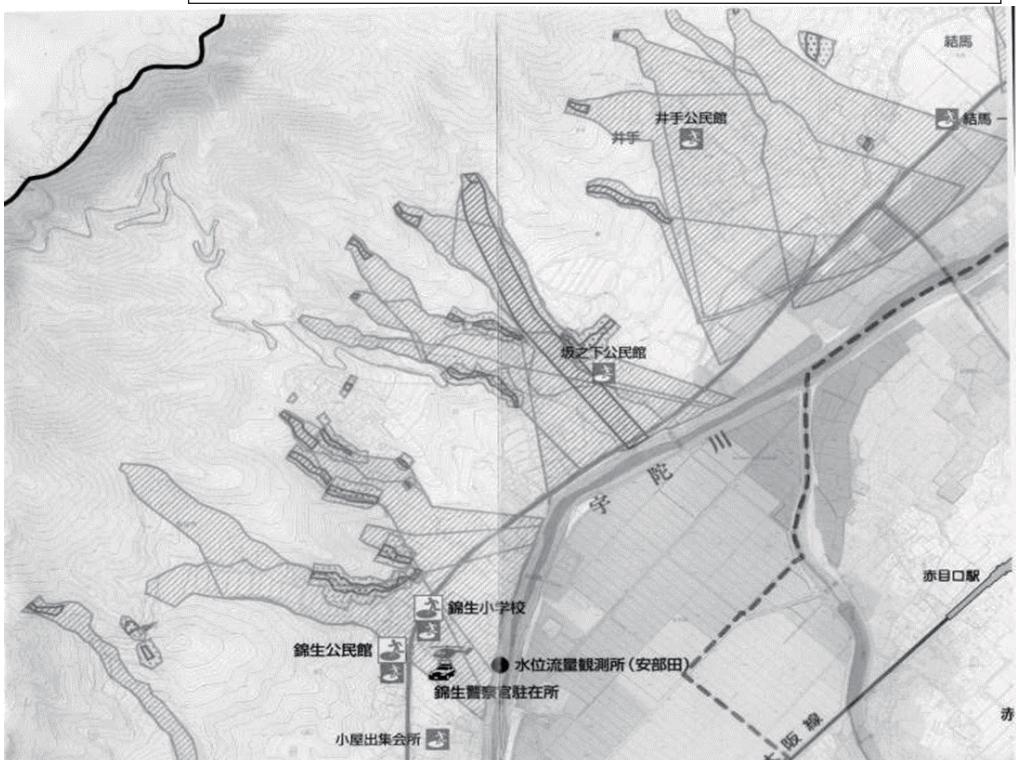
急がれる防災対策と 避難連絡システムの見直し

壊した19のため池の内、15か所は「防災重点ため池」以外のため池でした。豪雨になれば決壊が予測され、対策が必要とされている「防災重点ため池」でさえ半分以上（746か所）は予算がないということで根本的な改修工事がされていないことが農水省の答弁で明らかになりました。

高速道路やリニア新幹線の大型公共事業より
防災対策に予算を！

洪水・土砂災害ハザードマップ（名張市平成24年作成の錦生地域の一部分）

土砂災害警戒区域は、名張では錦生、箕曲、国津、薦原地域が指定されています



の一部に流れ込みました。
21号台風の時にも
床下浸水
これまで台風の時に床下
浸水した家が数軒あります。
た連絡が来た時にはすでに
家の前の道が膝まで水であふ
れ、避難することもできな
かったとのことです。
もしたまに池が決壊すれば、
住宅全体に被害がおよぶ恐れ
があります。住民の方からは
速やかな避難連絡の体制を
作つてほしいとの声が上がつ

現在のため池ハザードマップでは、水は東側の田んぼに流れ、西側の住宅には流れないことになっていますが、東側と西側のレベル差がさほどないため、住宅への被害の危険性も考えられます。

ため池の管理は、水利組合や集落など受益者を主体とした組織により管理されていますが、近年農家戸数の減少や高齢化が進み、土地利用の変化から、ため池や水路の管理ならびに監視体制の弱体化が懸念されているところです。

ため池の防災対策と点検、ハザードマップの見直し、防災情報の伝達方法など、行政の責任で進める必要があります。